

秀歌三十首十今年の収穫

佐藤モ二力

それぞれが自分の位置をかるうじてみつける

記念写真のときも 十月号・武藤 義哉

経済を難しく言ひて一息に水を飲みたりテレ

ビの男 井関 輝美

夕顔の開くまで待つてと引きとめてまた話し

込む秋立つゆふべ 十一月号・松本ちゑこ

目鼻大き大仏顔の人座せり奈良盆地行く近鉄

特急 原口嘉代子

恋を必ず叶えるという題の本を購入してゆく

老婆 佐佐木定綱

復刻版「踏繪」三刷に至りたり二刷ころより

見る朝ドラを 十二月号・晋樹 隆彦

道徳のプリントとして刷られたる善き人の写

真黒く濃るる 小川真理子

立ちのぼる湯気のむここの国遠く苦さが支え

となることもある 水口奈津子

猫を飼うとは猫になることと言う十四飼いし

吉本隆明 山崎 波浪

猿の顔見分け的確に名を呼べる職員を子はう

つとり仰ぐ 一月号・大口 玲子

をりをりに我にさからふ少年の面の確かさ速

さ鋭さ 山口 明子

吉本の芸人かとわれ思ひきや兵庫県会議員だ

と知りぬ 二月号・西田 郁人

ふはふはのケープ着せれば人形は雪を見上げ

る表情をする 野原亜莉子

こひびとの扉のまへでためらひて帰つてしま

ふ鳩の鳴き方 三月号・斎藤佐知子

妻を待ち食卓の箸整える菜の花あえを少しず

らして 四月号・田中 拓也

ふくしまを我は食ふなりいか人參こづゆ凍み

餅三五八漬けよ 本田 一弘

おかかとは女房詞おかか入りおにぎり食べて

午後は一人だ 五月号・坪内 稔典

懐かしき客としてけふ卓に招ぶ白黒写真のア

ンナ・カリーナ 田中 薫

前髪で受信して聞く月からの兎のラジオは卒

業特集 笹本 碧

ほの白く輝く真珠ひと粒のごとき一日いとお

しく生く 有野裕美子

米軍機は「不測の騒音」なりや否や監督要項

読みつつ思う 屋良健一郎

旅人でも島人でもなき我にくる五度目の春に

モズク摘みおり 六月号・俵 万智

石井好子はバタと書きたりオーブンを開けれ

ば甘く匂えるバター 森屋めぐみ

逃げて逃げて転んで逃げて春の夜は魍ごっこ

という遊びする 七月号・谷岡 亜紀